

## 言語生得説 The Innateness Hypothesis

- 合理主義 Rationalism
- 経験主義 Empiricism: S R
  - 行動主義心理学
  - アメリカ構造主義言語学
- 遺伝か環境か、氏が育ちか Nature or Nurtureの二者択一ではなく、両者の相関が重要

## 深層の普遍と表層の多様

- どの個別言語 particular languages もただ一つの人間言語 The Human Language の異なる具現化である
- 普遍文法の研究にとっては、世界中のどの言語も等しく重要なデータになる
- 比較研究

- ただ1種類の普遍文法を人類すべてが共有しているとして、個別言語の多様性はどこから生じるのか
- 語彙・ボキャブラリー
- 文法: パラメータ(媒介変数)設定

## 心的(心理学的)実在性 Psychological Reality

- 心的現象を説明する理論(モデル)としての正しさを指す
- 実際に心・脳の中でその通りのことが起きているという意味ではない
- 物理学実在性、生物学実在性、etc.

## 進化の問題

- 普遍文法自体はヒト進化の中で生じたものであり、その特性の説明は生物進化の中に求められるべきものである
- 個体発生(言語獲得):  
UG = 説明項 Explanans
- 系統発生(言語の起源・進化):  
UG = 被説明項 Explanandum

- 反復説 (E. Haeckel)  
「個体発生は系統発生を繰り返す」  
Ontogeny recapitulates phylogeny.

Cf. 「系統発生は個体発生の繰り返しである」

## *Evo-Devo*

- 進化発生生物学  
Evolutionary Developmental Biology  
進化と発生の統合理解

個体発生の有り様から進化の筋道を知る

7

- ミニマリスト・プログラム

UG自体の説明

*Evo-Devo*言語学

8

## 能力と運用

- 能力 competence:
  - 言語知識自体
- 運用 performance:
  - その知識の使用

能力は種共通で個人差がなく均質  
運用は千差万別

9

## I言語 (I-Language)

- I言語 (Individual / Internalized / Intensional)  
各個人に内在している内包的な言語知識  
文法能力・脳内文法・言語機構・言語器官

- E言語  
社会に共有された規範、個々の発話など、個人の内部を離れて外在化した言語

☞ ソシユール Ferdinand de Saussure

10

## I言語学 (I-Linguistics)

- 心的器官の一つである脳内文法の研究

生成文法 Generative Grammar

生物言語学 Biolinguistics  
神経言語学 Neurolinguistics  
心理言語学 Psycholinguistics

11

## 生成文法・生物言語学のテーマ

- A. 言語知識(脳内文法)の正確なモデル化
- B. その獲得プロセスの解明(個体発生)
- C. その使用のあり方
- D. その脳神経科学的基盤
- E. その種における起源と進化(系統発生)
- F. 統合問題 Unification Problem

12

## 理論としての妥当性

- 観察的妥当性 **Observational Adequacy**
  - 観察データを正しくとらえているか
- 記述的妥当性 **Descriptive Adequacy**
  - 言語知識を正しくモデル化しているか
- 説明的妥当性 **Explanatory Adequacy**
  - 言語知識の獲得を正しく説明できているか

13

## 進化的妥当性 Evolutionary Adequacy

- 文法理論は、その文法が生物進化の過程で実際に発生可能であったという事実と整合していなくてはならない
- 言語の起源・進化を説明できない生物進化理論は却下

14

## 理論言語学 Theoretical Linguistics

- 規範文法 **prescriptive grammar**
- 記述文法 **descriptive grammar**

科学は規範(どうあるべきか)ではなく、記述(事実はどうなのか)とその理論的説明を行う

理論 = モデル化された世界(仮想現実)

15

## データの整備

- モデル化の手続き
- 観測された事実をすべてそのまま説明することは不可能
- 説明すべきデータ(理論データ)とそうでないデータ(事実データ)を選別する
- 理想化 **idealization**・抽象化 **abstraction**

16

## 理論と事実の関係

- 理論の事実超越性・データの理論依存性
- どのデータが重要かは理論によって決まる
- 理論がデータを選ぶ(逆ではない)
- 観測自体が特定の理論枠の中で行われる

17

## 言語獲得(習得)をめぐって

- 母語知識はどうやって獲得されるのか
- 行動主義心理学の考え方(経験主義)
  - 刺激(S) 反応(R)
  - 刺激般化や類推による、経験基盤の学習
- 生成文法の考え方(合理主義)
  - 経験によらない、生得的・遺伝的知識の介在

18

## 言語獲得の論理的問題

### Logical Problem of Language Acquisition

- 母語知識を詳しく調べてみると、経験からは獲得不可能と思われる部分が存在する
- 「刺激の貧困」に基づく議論

### Argument from the Poverty of Stimulus

#### プラトンの問題 Plato's Problem:

経験してもいないことがなぜ分かるのか

19

## 普遍性と多様性

- 普遍性
  - すべての個別言語に共通するヒト言語としての特性
- 多様性
  - 共時的 synchronic 多様性
    - 現代日本語と現代英語はどう違うか
  - 通時的 diachronic 多様性
    - 現代日本語と上代日本語はどう違うか
  - 発達の developmental 多様性
    - 幼児文法と成人文法はどう違うか

20

## UG: ヒト言語の雛型

- どの時代のいかなる言語もUGが定める可変範囲内での変異であり、ヒト言語の大枠から逸脱することはない
- 赤ちゃんが最初に手にしたデータ（一次的言語資料 PLD）と矛盾しないたくさんの「仮説」のうち、UGに反するものは最初から検討する必要はない

21

## UG理論の簡潔性

- UGが制限力が強く簡潔であればあるほど、赤ちゃんが考慮すべき選択肢は絞り込まれる  
それだけ母語獲得が容易になる
- 理論の簡潔性は、説明的妥当性に直結する

22